



紅葉の季節のトンネル
と散策路＝春日井市

愛岐トンネル群保存のNPO活動

産業遺産継承、国交省が表彰

愛知、岐阜両県にまたがる旧国鉄中央線の廃線跡と赤れんがのトンネル群を、散策路に整備している市民の活動が、国土交通省の今年度の「手づくり郷土賞」に選ばれた。眠っていた近代産業遺産を地域の財産として後世に語り継ぐとする取り組みが評価された。

受賞したのは春日井市のNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」（山本勝利理事長）。今年度は国交省の外郭団体による「土地活用モデル大賞」の審査委員長賞にも選ばれ、ダブル受賞になった。

1986年度に創設された手づくり郷土賞は、地域の魅力や個性を創出してい

る社会資本と、それに関わる優れた活動を一体として表彰。選定委員会の講評は今回、郷土を一瞬で消失させた東日本大震災や台風被害に触れ、賞の対象を「日本の再生に向けた活動の先駆け」と位置づけた。

愛岐トンネル群について、選定委員長の西村幸夫・東京大副学長は「モノを新しく作るのではなく、あるものを大事にしている。地元も熱心に継続して取り組んでいる」と言う。

この賞には新規の一般部門と、受賞後もさらに成果を上げた大賞部門がある。NPO事務局長の村上真善さんは「今後活動を充実させ、3年後は大賞を目指したい」と話している。